

明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

日本の農産物は中国産より安全でない、に驚き！



明日の小山田を考える会
会長 菊池 保守

先月有機農業に関する勉強会を振興センターで開催しました。その際、北海道当麻町で有機農業を実践されている瀬川さんが大変驚くべきことを発言したのでした。

それは、日本の農産物の栽培に係る農薬使用量は世界一であるというものです。外国、特にヨーロッパでは日本の野菜は危険だから旅行の際はなるべく食べないように、とネットに書き込みがあるとのこと。また今年のオリンピックの選手団の野菜は自国から空輸することを検討しているらしい、そして今や日本の農産物は中国産より安全ではない、という発言に、本当にびっくりしました。

そこで、改めて日本の農薬使用量について調べてみることにしました。

FAOSTAT（国連食糧農業機関統計システム）による農薬使用量の国際比較2018年版によると、日本の1ha当たりの農薬使用量は、11.85kg（2014年時点での比較）、フランス3.9、オーストラリア2.39、アメリカ2.59、イギリス3.02kgと日本がダントツに多いことがわかります。

原因は種々あると思いますが、日本の残留農薬の基準が他の国と比較して緩いというような記述もありました。

いずれ大事なことは、食べ物は人間の健康を大きく左右することですので、そこを十分認識してより良い農産物を生産することが重要であると改めて思ったところです。

今回の勉強会を通して、食べ物は命、との考えのもと有機無農薬栽培に取り組んでいる人たちがいることがわかりました。中には町を挙げて取り組んでいる事例や会社組織を立ち上げて取り組んでいる事例、個人で懸命に取り組んでいる事例が沢山あることがわかりましたが、これら取り組みは我が国の全体の僅か0.5%に過ぎないこと。しかしながら、欧米や中国などでは厳しい生産基準を設けて農薬使用量を確実に減らすことを実施していることから、いずれは世界基準を意識して栽培しなければならない日が確実にやってくると確信した次第です。

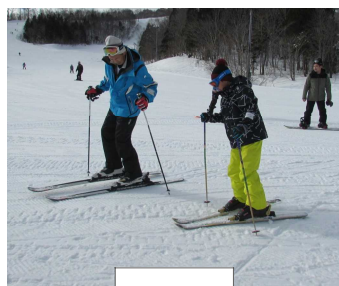
スキー・スノーボード教室を開催しました



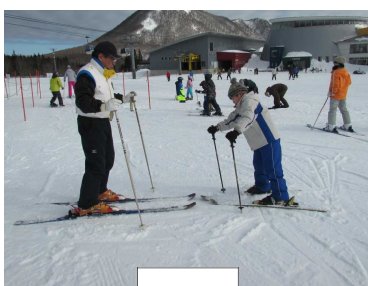
集合写真

去る1月11日（土）小山田地域スキー・スノーボード教室を開催しました。今年は積雪が少なかったため会場を夏油高原スキー場に変更しました。

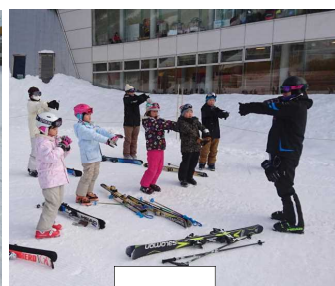
参加者はそれぞれのクラスに分かれ、スキー初心者には菅原猛さん、スキー初級者は菊池忍さん、スキー中級者は浅沼直行部長、菊池泉部員や保護者の方のサポートで学習しました。スノーボードは自由滑走でしたが、参加者全員冬のスポーツを満喫しました。



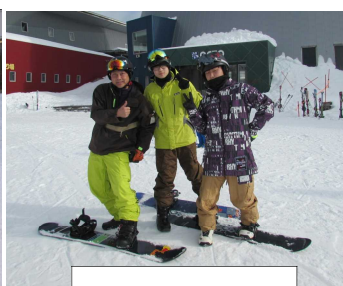
初心者



初級



中級



スノーボード

にこここサロンを開催しました



もちつき体験

去る1月15日（水）今年度最後のにこここサロン「餅つき体験・みずき団子飾り」を開催しました。小山田保育園児との交流を楽しみにサロン会員10名と生活環境福祉部員等が参加しました。

保育園児による歌での応援をもらいながら、臼と杵を使った餅つき体験を行いました。また、主任児童委員の菊池成俊^{しげとし}さんよりみずき団子の由来について教えて頂いた後、みずき団子を園児さんと一緒に飾りました。その後は、つくたてのお餅を美味しく頂きながら交流会をしました。



みずき団子飾り



菊池成俊さんによる
みずき団子のおはなし



参加したにこここサロン会員



望まない受動喫煙をなくすため健康増進法の一部改正があり、公共施設である小山田振興センターも対象施設となりました。以前から館内は禁煙としておりましたが、4月1日より敷地内も禁煙となります。何とぞご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

後継者育成郷土芸能発表会を開催しました

去る2月11日（火・祝）後継者育成郷土芸能発表会を開催しました。総勢約200名が来場し、6つの団体の発表を鑑賞しました。小山田の子どもたちは元気に日頃の練習の成果を見せてくれました。

4月から中学1年生になる児童8名より、6年間郷土芸能に取り組んだ感想や中学校生活で頑張りたいことについても発表してもらいました。

また、恒例の小学校新入生お祝い会（対象者15名）と餅つき体験も併せて行いました。農業体験学習事業で栽培したもち米でついたお餅をふるまい、今年度も充実した発表会となりました。



御祝い 第3行政区



しんがく 小山田保育園



こきりこ 第2行政区



外谷地田植え踊り 第4行政区



石鳩岡荒鷲太鼓 第1行政区



石鳩岡神楽 第1行政区中学生

2020年2月末現在

小山田の人口	世帯数	男（人）	女（人）	計（人）	比較（1月末）
第1行政区	62	103	83	186	—
第2行政区	147	209	210	419	—
第3行政区	159	232	241	473	1人減
第4行政区	111	192	182	374	1人減
計	479	736	716	1,452	2人減

きぬかわカレッジを開催しました



講師 落合 昭彦氏

去る1月25日（土）第3回きぬかわカレッジ記念講演を開催しました。えふえむ花巻放送局長の落合昭彦氏を講師に、「花巻・東和町の不思議な魅力～ふるさと小山田の可能性も考えながら～」をテーマに講話頂きました。

「小山田」の名前の由来については、小山とは早池峰山を指し、田んぼから小山（早池峰山）を仰ぎ見ることができる場所という意味で小山田という地名がついたのではないかという一説があるとの説明に会場からは感嘆の声が聞こえてきました。

事前に地域住民に取材をされ、地域課題や小山田（人）の傾向、落合氏の感じる東和町の特徴やイメージを基に、小山田地域をさらに輝かせるための様々な提案がありました。

参加者からは「小山田や東和について良く知っていて驚いた。小山田を盛り上げるため、皆で体と知恵を出し合おう。身近なものを生かす必要を感じた。」などの声があり、きぬかわカレッジの締めくくりにふさわしい講演となりました。

「有機農業についての勉強会」を開催しました



講師 瀬川 守氏

去る2月21日（金）、小山田地区内外より総勢27名が参加し、2名の講師による「有機農業についての勉強会」を開催しました。農業生産法人（有）当麻グリーンライフ代表取締役 瀬川守さんより「当麻町における有機農業の実践」及び前JAきたそらち代表理事組合長黄倉良二さんより「北竜町農業協同組合は私が変えた!」（農協の使命 * 食べものはいのち）をテーマに講話頂きました。

生産性の高いトマト苗の作り方や農業保全型環境（環境を保全するための農業でなく、命を最も大切にする農業）についてなど広い視点から農業の取り組み方を学び、農薬使用量の低減は大きな課題であり安全な農産物を生産することの重要性をあらためて感じました。

（※農業保全型環境とは黄倉さん独自の言葉です。）



講師 黄倉 良二氏

編集後記

今年度は平成から令和に変わり新しい時代になり、当会も今年度は新規事業「まほろばの郷かけっこ事業」や「農業女子スキルアップ事業」などにも取り組み、盛りだくさんの1年でした。地域の方のたくさんの参加があり、各種事業に取り組むことができました。本当にありがとうございました。来年度も積極的な参加をお願いします。（桐田愁佳）

発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941

ホームページ：<http://www.asuno-oyamada.jp/> ホームページもご覧ください。

メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp